

入 選

水の記憶

水戸市立第四中学校

二年 佐藤 真季乃

水には記憶があるといひます。

「水の記憶」。これはジャック・バンヴェニストという学者が唱えた説です。水は一度溶かしたものを覚えていくというものです。ものすごく薄い濃度でも、水は覚えていくそうです。

この作文を書こうと思ひ、もう一度水について、考えました。水はどうやってできて、どこからくるのだろう。私は一日にどれだけ水を使っているだろう。何に使っているだろう。色々なことを考えている中で、「水の記憶」というものがあつたことを思ひ出しました。初めて水には記憶があると聞いたとき、私はとても驚き、関心を持ちました。水にも記憶があるんだなあ。今、私が飲んでいる水には、ど

んな記憶があるのだろう、と。

そこで私は、水の目線になつて考えてみました。溶かしたものだけではなく、行つた場所なども覚えていたらどうだろう？

まずは、水道水として、人の生活に使われた場合。私は毎日必ず水を使ひます。飲み水としてはもちろん、料理、洗たく、トイレやお風呂。数え切れない程たくさん用途で生活に用ひています。その中で、「飲み水」の目線になつてみました。水道の蛇口から出てコップに注がれる。そして、人の口に入る。その人が幸せだと思つてくれたら、水の私も幸せだと思ひます。でも、その人に「おいしくないな」と思われたら、水の私は悲しくなります。また、蛇口から出て使われず、そのまま流されてしまつたら、もっと悲しくなると思ひます。水は蛇口に来るまで、いくつもの過程をたどつて来ています。浄水場などでせつかくきれいにしてもらつたのに、使われずに流されてしまつたり、無駄にされてしまつたら、とても悲しく、辛い思ひをします。だからこそ、水は大切に使わなければいけないなど、改めて思ひまし

た。

次に、海や川の水になって考えてみました。海や川には、きれいで透き通った所もあれば、汚れてしまっている所もあります。雨として海や川に降ってくる。その場所が、とてもきれいだったら。水の私は嬉しい気持ちになります。きれいな所なら、魚や昆虫、植物などたくさん生き物に出会うことができます。でも、汚ない所だったら。嫌な気持ちになります。自分がこれから旅をするなら、もちろんきれいな場所がいいからです。水だって、旅をしています。周りの仲間と、離れたり、くっついたりしながら、流れて旅をします。なのに、その場所が汚れていたら、きつと嫌な思いをします。様々な生き物に出会うことだってできません。そんな汚れの原因は、やっぱり人間だと思えます。人の生活から出るゴミなどで、海や川、それ以外の自然環境も、汚されてしまっています。今、このような環境問題が、世界で見直されています。汚してしまうのは一瞬でも、きれいだった元の姿に戻すには時間や労力がかかります。また、何も悪いことをしていない

生き物たちにも、迷惑をかけてしまいます。だから、一人一人が意識して、このような問題と向き合わなければならぬのです。

地球は、「水の惑星」です。私たち生き物は、水がなければ生きていくことができません。毎日毎日、水に助けられて生きています。世界には、水を飲むこともできずに、苦しんでいる人がいます。そして、水を必要としているのは人だけではありません。だから、いつでも自由に水を使うことができる私たちが水を無駄にすることなんて許されません。水を使えることに感謝して、大切に使います。

「水さん、ありがとう」